

ぐに別殿の行幸なれば、其時著あらためむ、散しあぶらを供す、  
も、造作なるによりて、初より袴を著るなり

〔禁中近代年中行事 正月〕六日 年越の御獻 初獻三ツ肴出ル、二獻は御こんぶあは、三方の角の方  
にかちぐり七ツ有長のしの上にある、三獻はなし、二獻まで、十四日 年越御こん 同し御事な  
り

〔年中行事故實考 正月〕六日 年越の御獻御臺所并男居より奉るよし禁中年中行事略に見え  
り、民家にては年越の祝、大根汁、田作り、繪など調へことぶきとす、

〔光臺一覽〕六日 正月 年越の御儀式

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年正月六日、としこしの御盃一獻、御こぶあわにてまいる、

〔言經卿記〕慶長九年正月六日、丁巳、歳越祝詞如例年、

〔江戸鹿子 年中行事 正月〕六日 十四日 年越神明參

〔増補江戸年中行事 正月〕六日 年越祝ふ、恵方氏神參り、

〔東都歳事記 正月〕六日 良賤年越を祝ふ、六日 年越といふ

〔故實拾要 三〕十四日 年越御獻 是六日ノ御獻ノ規式ニ同ジ

〔後水尾院當時年中行事 正月〕十四日 年越の御さかづき、常の御所にて一獻まいる、けふもちらし  
油を供す、

〔日次紀事 正月〕十四日 歳越 今夜俗稱十四日、各相祝、

〔諸國年中行事大成 正月〕十四日 歳越 今夜諸公家の奴僕、圓餅を杖に挿み、諸家ごとの門戸を

敲く、略

〔日本歳時記 正月〕十四日 今夜蘿蔔にて臼杵、判金いろくの物作りて折敷につらね、簀笠き  
て人のもとへ持行かのをしきを戸の内へさし入て置をあるじの方より取て、その折敷に米